

地方都市視察報告書

防災等安全対策特別委員会

1 実施日 令和6年12月17日(火)

2 視察地 静岡県

【県の概要】

(1) 面積 7,777.43km²

(2) 人口・世帯数

(令和6年12月1日現在)

○人口 3,520,616人

○世帯数1,527,570世帯

(3) 静岡県は日本の中部地方に位置し、豊かな自然と歴史的な魅力を持つ地域である。北には日本一の高さを誇る富士山がそびえ立ち、南には駿河湾や遠州灘が広がり、気候は温暖で、年間を通じて観光やアウトドア活動が楽しめる。また、温泉地も多く、熱海や伊豆半島は人気の観光スポットとなっており、歴史的には徳川家康ゆかりの地として知られ、駿府城跡や久能山東照宮などに多くの人々が訪れている。さらに、静岡市や浜松市といった都市では、伝統工芸や地元の食文化も楽しめる。富士山や南アルプス、伊豆半島、駿河湾、浜名湖など、豊かな自然が静岡県の魅力的な景観を生み出した一方で、地震や火山噴火などの多くの自然災害をもたらしてきた。県は1976(昭和51年)に発表された東海地震説以降、大規模地震に備えるため約50年にわたり、ハード、ソフト両面における様々な防災対策を実施している。



3 視察項目・内容

静岡県の防災施策について

4 視察参加者

【委員】

えのき秀隆副委員長

木もとひろゆき委員

渡辺みちたか委員

藤原たけき委員

おやまだ静香委員

たなえひさし委員

杉山直子委員

青木仁美委員

中村しんいち委員

【議長】

ひやま真一

【随行】

議会事務局議事係 松浦真奈美 黒木明子

5 視察結果・所感

今回の視察では「静岡県の防災施策について」をテーマに、県が実施している多岐にわたる防災対策について説明を受け、その後、静岡県地震防災センターを訪問し、実地体験を通じて防災の重要性を再認識することができた。

静岡県は、日本でも特に地震や津波のリスクが高い地域であり、南海トラフ巨大地震への備えが喫緊の課題である。県庁では、担当者から防災計画や具体的な取組について詳細な説明を受けた。各委員からの質問に対し、担当者より具体的な事例を交えた丁寧な回答を得つつ、県が直面している課題とその取組について深く理解することができた。

視察後半には静岡県地震防災センターを訪問した。同センターは住民が地震災害の脅威を理解し、適切な防災行動を学べる教育施設である。地震体験コーナーでは震度7の揺れを体験し、南海トラフ地震の危険性を実感した。また、防災用品の展示では災害時に必要な物資や備蓄方法を学び、正しい行動を学ぶ教育動画も視聴した。これにより、住民一人ひとりの防災意識を高める重要性を再確認した。

視察を通じ、静岡県が進める多角的な防災対策を確認しつつ、防災計画の実効性向上には住民の意識向上と地域特性に応じた柔軟な施策展開が求められると感じた。本委員会は今回得た知見をもとに、地域社会の安全性向上を目指した委員会活動を進めていくものである。

6 主な質疑項目

- (1) 南海トラフ地震臨時情報への課題について
- (2) 南海トラフ地震臨時情報発出（2024.8.8）における対応状況について
- (3) 在宅避難について
- (4) 「わたしの避難計画」普及向上の取組について
- (5) 県民の防災意識向上の施策について
- (6) 防災に関わる職員の体制について

7 その他

【共同視察者】

危機管理担当部危機管理課長
福岡淳也

